

2019年度事業報告

はじめに

2019年度2月頃からの新型コロナウイルス感染症により、利用者、職員の安全を守るための情報収集と衛生用品等の物資の調達では支援しあい、日々の取り組みに追われながらも職員は奮闘してくれています。保育は委託費への影響はありませんが、介護、児童支援は利用者が減り収入に大きく影響しています。また、各事業所安全を守るための物資の確保は難しいが支出は大きく、今年度はコロナ対策に追われ厳しい1年となりそうです。社会福祉としての役割を果たしながら職員の安全、利用者の安全を確保し、質の確保と向上のために様々な現象に丁寧に対応しながら運営していきたいと思えます。

2019年度に事業計画で情勢の特徴を以下のように位置付けました。

安倍首相は、自衛隊を明記し新しい憲法施行の年にしたいと「武力による平和」を目指す国に転換しようとし、沖縄の辺野古新基地建設は民意を踏みにじり、強引に進めています。社会保障では、年収200万円以下の層が12年連続して1,000万人をこえ、非正規雇用の労働者は2,000万人を超えてきています。少子高齢化の中で労働力不足を口実に年金改悪を見据えた高齢者の労働力化し、全世代型社会保障改革を提起し公的年金の資質の抑制、医療費・介護給付の削減、65歳以上の人も支える側に求める側に回ってもらうことです。消費税は10%に引き上げられることで、処遇改善、幼児無償化が行われ、給食費が実費となり食育は形骸化されました。

介護では、自立支援や適正化で成果を上げた自治体に交付金を支給するという保険者機能強化推進交付金が開始、混合介護により、保険外サービスの産業化、保険給付の圧縮を狙い、自立支援型介護が「質の高い介護」とされようとしています。本来の「自立」とは理念をめぐるたたかいが重要となってきました。

保健福祉の会として①職員・事業所を守る、②憲法25条に基づく生存権保障に根差し、だれもが人間らしく尊厳のある任性が送れるようにするために、権利としての公的福祉の在り方を追求していく、③住み慣れた地域で人と人とのつながりのあるまちづくりを進めていくために制度の狭間で起きていることにも目を向け、地域団体とも連携しながら運営してきました。一層の厳しさが予想される介護制度・保育制度・障害福祉サービス制度の動きに対し署名活動や介護ウェブで宣伝を行う等運動も含めて対応してきました。人材確保、幹部職員・職員の育成を行い、サービスの質の向上、制度の狭間にあるニーズに焦点を当てそれに応える福祉サービスの供給、職員処遇の向上、組織統治の確立などの具体化を図り、「利用者・子どもの立場に立った」事業の維持・発展に努めてきました。

2019年度は下記を重点事項に据えて取り組んできました。

- ① 介護事業の安定的な運営
- ② 保育園の安定的な運営
- ③ 児童支援事業の運営
- ④ 利用者の立場に立つ質の高いサービスの提供 各事業所共通
- ⑤ 制度にない福祉サービスの展開
- ⑥ 各事業所の予算達成
- ⑦ 幹部職員の配置と育成、職員の雇用と育成と労働条件の整備

- ⑧ 社会保障制度を守り発展させる活動
- ⑨ 法人としての役割、組織の在り方を検討し具体化する

以上の取り組みの詳細は、各事業所の報告を参照いただき「2019年度事業」の概要を以下の通り報告します。

1. 介護事業の安定的な運営

特養都和のはなでは、退所3名で、入院が少なくベッド稼働率95.9%と昨年度(94.3%)より向上していますが、ショート利用率1.2%と昨年度と0.5%upにとどまりました。ショートの利用率を上げることが課題です。身体拘束は、2名いましたが現在はいません。職員の健康と利用者の安全のために浴室リフトを2基購入しました。収支としては▲68万円の赤字となりました。

西の京は、スローガンとして在宅強化型老健として、その人らしい自立した生活に向けて、利用者職員のできる事を支援していこうとしました。在宅強化型老健は1年間維持してきましたが、超強化型老健を展望するには在宅復帰数やベッド稼働維持等の課題があります。ケアの向上にも取り組んできましたが、退所後のケアの組み立ては次年度の課題です。今年度から訪問リハの開始、通所リハについては、利用者主体型に向け、プログラムやレイアウト変更等を行い新規利用者も一定いますが、施設入所等で終了もあり回復できませんでした。職場を超えた業務支援協力を行う中で都和のはなのベッド活用が行われてきました。日常的な情報共有と迅速な対応が課題です。経営としては、▲463万円の赤字となり、部門別にみると通所、居宅、配食が厳しい状況にあり今後の収益を上げる事業を模索していきたいと思えます。

グループホーム都和のはなの退所はなし入院中のベッド活用35日間で稼働率は98.5%となり収支も32万円の黒字となりました。

ケアステーション虹の家は、管理者の退職に伴い居宅介護支援事業虹の家の12月に休止しましたが、多くのご協力を得ご利用者への影響を最小限に抑えることができました。管理者の産休育休取得により常勤体制を厚くし、訪問介護の件数についてもヘルパーの入れ替わりにより減りましたが、2・3月に40件を超えることができました。収支については▲504万円の大幅な赤字となりました。

2. 保育の安定的な運営

○消費税10%にするにあたって幼児無償化について4月佛教大学田中智子先生による4か園合同研修に59名が参加、法人としては10月から給食費1か月6,500円としました。

○各園共に、職員間の連携や保育への不安等を受け、様々な会議の取り組み方や面談を行い援助する中で、保育の質の向上を目指し支援してきました。

○安全委員会では、3年間のヒヤリハット・事故のデータを集め傾向は分かってきましたが、更なる検討を進めていくために大阪電気通信大学の平沼先生の助言をいただきながら進めてきました。研修も予定していましたがコロナウイルス感染症のため延期となりました。次年度更なる分析を行い各事業所に反映し実践に生かしていきます。

○その他、保育分野にかかわる大きな特徴は、大津の園外保育中の交通事故を受けて、園外保育の安全対策マニュアルの見直しが行われました。また、京都府より子育て環境充実事業の補助金がありました。

○各園の入園状況は、白い鳩保育園1か月平均122.8名、洛西保育園1か月平均143.1名、あらくさ保育園1か月平均56.2名、青い空保育園1か月平均74.2名、となりました。

白い鳩保育園では、120名定員で118名の定員割れでスタートしたことを受け人件費状況やクラスを超えた連携に力をいれてきました。

洛西保育園では、大型連休の預かり保育を行いました。産休・病休・途中退職と続き人確保に苦慮した1年でした。労働安全衛生委員会を2月より行い年間計画の作成、月一回の会議と産業医の巡回を行ってきました。Twitterで情

報発信してきました。

あらぐさ保育園では、園長交代、定年退職、人事異動で1名受け入れ、年度途中で2名の産休入りということで、職員体制は厳しい状況でした。0歳児の入園が4月5名と少なかったこと、ベテラン保育士の定年により、委託費とプール制は減少しましたが、2名の産休入りにより非常勤対応等で対応してことにより人件費は減少しています。

青い空保育園は、60名定員で72名120%でスタート、年平均74.17名、123.61%の受け入れでした。年度途中でのクラス移行を行うなどして対応しました。短時間保育、支援の必要な家庭が多く、障害児認定された子どもが12%に当たる子ども達が認められました。Twitterで情報発信をしています。3月末で移管が終了しました。

〇2020年度の入所状況についてみていくと、北区利用定員2,434名、利用児童数は2,405名（定員内2,278名定員外127名）、利用定員に29名満たない状況にある一方で潜在的待機児童13名います。中京区は、利用定員2,434名、利用児童数2,359名（定員内2,281名定員外78名）、利用定員に75名満たない状況にある一方で31名の潜在的待機児童がいます。南区では、利用定員2,811名、利用児童数2,861名（定員内2,649名、定員外212名）、利用定員より50名多く入所し、更に50名の潜在的待機児童がいます。南区においては、出生率は上がり他区に比べて定員以上に受け入れています。洛西保育園については、中央病院が移転した影響はあると思われるが、隣接する右京区においても南区と同様の状況なので、0歳児の途中入所を期待したいところです。安定的な運営をしていくためには入所児童数の確保は欠かせないので、この先の動向を見極めながら具体策（入園案内のピラ配布やホームページのツイッターの活用を行う、施設は年々古くなっていく中での環境整備、法人理念に基づく各園の大切にしたい保育等）を再度検討していかなければいけません。

3. 児童支援

〇児童発達支援事業では、事業所が増えている中で選ばなければどこかに入れる状況にあり療育待機児童の状況がつかみにくくなっています。発達相談所からは、パーチェへの希望は多く待機があるということです。

〇職員確保と育成が課題となっており処遇等についての検討と児童支援事業部長・パーチェ管理者について、保育も含めた検討を次年度以降行います

〇利用状況は、パーチェ1日当たり11.5名、第二パーチェ1日当たり9.5名、パーチェ梅小路1日当たり9.3名となりました。相談支援パーチェ計画相談年間316件、モニタリング年間262件と増加傾向にあります。セルフプランとの選択制にしましたが相談支援はさほど減とはなりませんでした。

〇保護者支援では年3回療育計画と保護者との個人面談を実施、親グループでは、実施日以外は外出する保護者が多くなり、気軽に話す雰囲気は少なくなってきました。家族懇談会への参加も少なくやり方の検討が必要です。

4. 利用者の立場に立つ質の高いサービスの提供

〇利用者の権利を守り保障できるよう、環境整備、質の向上のために積極的な研修参加、業務の効率化職種を超えた連携に取り組んできました。

〇技術・専門性の向上について、介護では、民医連の研修はじめ、綱領学習、内部研修は、延べ11回開催してきましたが参加にはバラツキがみられました。キャリアパス等の教育・研修体系の作成には至っていません。保育は研修体系見直しで実習について確認しました。法人内研修では、保育環境2回、年代別では20歳代と副主任のグループ討議を行いました。外部研修では京都市、保育園連盟、保育士会、懇話会、各全国集会などで提案するなどに参加してきました。児童支援では、職員会議の中で情勢、発達、障害、虐待、保護者支援について行い、外部研修では、全障研や全通連等に参加してきました。

〇職種を超えての連携した取り組みで、介護は多職種による職場運営を進め、保育の現場でも職種を超えて連携を行

ってきました。

5. 制度にない福祉サービスの展開

制度の狭間にある要求に焦点を当て、それに応える福祉サービスの提供

○介護分野…認知症カフェ、医療・介護懇談会で講師、西の京だより年4回発行（中京・右京区の居宅）

○保育分野…地域の子育て支援（遊ぼう会・離乳食懇談・園庭開放・子育て講座・半日保育園体験）、地域高齢者との交流、地域新聞の発行

○児童支援分野…中部圏障害者自立支援協議会児童部会への参加、京都市自立支援協議会児童部会参加、中京区発達支援ネットで2回パーチェ施設実習、保健センターこあらっこでは母子分離でグループワークに力を入れ高評価だったが、次年度については動向がわからない状況。児童館発達支援ほっこりランドでは4回のうち1回遊びについて講義、地域新聞の発行、地域での祭りに参加

6. 各事業所の予算達成

決算報告を参照

7. 幹部職員の配置と育成、職員の雇用と育成、労働条件の整備

○幹部職員の育成と配置では、あらかじめ保育園園長人事、西の京の相談室長の配置をし、管理者の補強を行ってきました。

○児童支援事業管理者については、継続して検討していきます。

○安定的な雇用の促進ということでは、初めて3月9日の佛教大学学内合同就職説明会（2021年度卒）に参加の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い中止となりました。正規職員の確保はできていますが非常勤職員の確保に苦労しています。養成校訪問やホームページやツイッターの活用、事業所のアピール（理念がわかる、利用状況が見える、働きやすい労働条件等）を分かりやすくしてきましたが更に検討していきます。

8. 社会保障を守り発展させる活動

○地域関係者団体等の協同で平和活動を重点に、介護、保育、児童支援各分野の制度改善の署名や介護ウェブに参加し現状を訴えてきました。

9. 法人としての役割、組織の在り方を検討し具体化する

○毎月1回介護事業部会・保育事業部会・児童支援事業部会の運営の中で各事業所での課題や改善方法などの意見交換、確認を行い、人事、労働組合の対応、他事業所の取り組みを紹介するなど行ってきました。事務局会議では、各部分からの報告、稟議決裁、課題、改善、理事会議案等について確認するなど管理運営の向上を図りました。

○働き方改革について管理者研修を9月26日社会保険労務士の古田さんを講師に行い、14名が参加しました。

○上記の研修とパートタイム・有期雇用労働法の施行に伴う就業規則の改定を行い、2020年4月実施を行いました

○理事会の出席率は、6名の理事で年間4回の理事会で欠席者なしの100%（前年度87.5%）、評議員会は7名で評議員3回、文章での決議の省略1回で欠席者なしの100%（前年度95.2%）でした。

○今期行われた行政監査による文書指摘事項はありませんでした。

以上

2019年度決算報告

1. 2019年度の決算概要

事業活動のサービス活動収益は15億5,100万円となり、予算比で102.9%、4,313万円増となりました。(前年比101.6%) 事業毎では、介護事業：前年比102.1%・予算比98.3%、保育事業：前年比99.5%・予算比108.2%、児童支援事業：前年比109.3%・予算比105.1%となりました。

サービス活動費用は、14億6,931万円、予算比99.3%と予算内に収まりました。事業毎では、介護事業：予算比100.3%、保育事業：予算比99.0%、児童支援事業：予算比96.1%となりました。

人件費は収益比73.0%で、予算比で99.1%、事業毎では、介護事業：予算比100.8%、保育事業：予算比98.1%、児童支援事業：予算比96.1%となりました。

当期活動増減差額は、保育事業5,674万円・児童支援事業3,061万円の黒字、介護事業で▲1,004万円の赤字を計上し、法人合計で8,540万円の黒字となりました。

<事業活動計算書 概要>

単位：万円

		サービス活動収益計	サービス活動費用計	サービス活動増減差額	経常増減差額	当期活動増減差額
介護事業	2019年度実績	75,473	75,042	430	569	▲ 1,004
	2019年度予算	76,791	74,820	1,971	2,157	497
	2018年度実績	73,901	73,866	34	157	▲ 544
	予算比	98.3%	100.3%	21.8%	26.4%	-202.0%
	前年比	102.1%	101.6%	1264.7%	362.4%	184.6%
保育事業	2019年度実績	65,827	58,668	7,159	7,993	5,674
	2019年度予算	60,865	59,232	1,633	2,679	1,006
	2018年度実績	66,157	59,296	6,861	8,076	6,396
	予算比	108.2%	99.0%	438.4%	298.4%	564.0%
	前年比	99.5%	98.9%	104.3%	99.0%	88.7%
児童支援事業	2019年度実績	13,800	10,079	3,721	3,723	3,061
	2019年度予算	13,131	10,483	2,647	3,223	2,563
	2018年度実績	12,628	9,283	3,344	3,363	2,685
	予算比	105.1%	96.1%	140.6%	115.5%	119.4%
	前年比	109.3%	108.6%	111.3%	110.7%	114.0%
法人合計	2019年度実績	155,100	146,931	8,170	9,324	8,540
	2019年度予算	150,787	148,036	2,751	4,709	4,443
	2018年度実績	152,687	145,767	6,919	8,391	9,124
	予算比	102.9%	99.3%	297.0%	198.0%	192.2%
	前年比	101.6%	100.8%	118.1%	111.1%	93.6%

資金収支差額合計は、積立資産支出6,400万円（※後に記載）を行ない1,976万円の黒字となりました。

今期の100万円以上の投資は、白い鳩保育園人工芝敷設工事155万円、洛西保育園外壁塗装工事395万円・防犯カメラ一式174万円、青い空保育園木製展望台110万円、パーチェ・第二パーチェ床暖房工事220万円、特養都和のはな介護リフト176万円、老健西の京スチームコンベクション142万円・電動ベッド一式381万円・印刷機311万円・電話システム150万円、保育園・児童支援事業園バス565万円を行いました。固定資産取得支出は3,520万円となり、借入金元金返済3,918万円等、事業活動資金収支差額1億5,284万円と京都市からの補助金等で対応しました。

<資金収支計算書 概要>

単位：万円

	事業活動資金 収支差額	設備資金借入金 元金償還支出	固定資産取得 支出	積立資産支出	当期資金収支 差額
19年度実績	15,284	3,918	3,520	6,400	1,976
19年度予算	9,769	3,918	1,040	1,200	3,260
18年度実績	12,896	4,328	2,893	3,900	3,299
予算比	156.45%	100.00%	338.46%	533.33%	60.61%
前年比	118.52%	90.53%	121.67%	164.10%	59.90%

総資産は、25億9,921万円で前年度より2,454万円の増加となっています。流動資産は、事業活動収支の結果・保育園の積立金等で▲205万円の減少となっています。固定資産は、積立金等の増加、減価償却減の差引で2,660万円の増加となっています。

負債は、5億5,286万円で前期より▲4,673万円の減少となっています。今期、新たな借入金はありませぬ。長期借入金返済は予定通り3,918万円の返済をおこなっています。

純資産は、当期活動収支差額8,522万円の黒字、国庫補助金の償却減、積立金等の結果、20億4,635万円で、7,128万円の増加となりました。

<貸借対照表>

単位：万円

	2019年度	2018年度	前期差額
総資産	259,921	257,467	2,454
流動資産	73,807	74,012	▲ 205
固定資産等	186,114	183,454	2,660
負債	55,286	59,959	▲ 4,673
流動負債	17,055	19,267	▲ 2,212
固定負債	38,199	40,691	▲ 2,492
純資産	204,635	197,507	7,128
次期繰越活動差額	92,012	89,871	2,141
内当期活動差額	8,522	9,124	▲ 602

2. 各分野の状況

(1) 介護事業

利用者状況		19年度実績	19年度予算	18年度実績	予算比	前年比
特養都和のはな	入所(利用率)	95.9%	98.0%	94.3%	97.8%	102.4%
	入所(利用率)	94.2%	95.0%	94.2%	99.1%	100%
老健西の京	通所(1日平均利用数)	202人	25人	25.1人	80.8%	80.4%

GH都和のはな	入所(利用率)	98.5 %	97.0%	93.0%	101.5%	105.9%
虹の家	訪問介護(月件数)	35.8人	45人	39.5人	79.5%	90.6%

特養都和のはなの退所者は3名でした。ベッド利用率は95.9%(前年比102.5%)となり、目標には届きませんでした。前年度の請求修正益182万円があり、当期活動増減差額は▲68万円の赤字となりました。

老健西の京は、ベッド利用率は95%目標で年間平均94.2%でした。在宅復帰率は、年間平均43.7%です。通所リハビリテーションは、1日平均20.2人(前年度25.1人)と引き続き減少しています。当期活動増減差額は▲463万円の赤字となりました。

グループホーム都和のはなの今期の退所者はありませんでした。ベッド利用率は98.5%(目標97%)となり、当期活動増減差額は32万円の黒字となりました。

ケアステーション虹の家は、居宅介護支援の休止、管理者の産休・育休による体制縮小により、居宅支援目標65件に対し月平均62件、訪問介護は目標45件に対し35.8件と目標未達成となりました。当期活動増減差額は▲504万円の赤字となりました。

介護事業合計は、当期活動増減差額は▲1,004万の赤字、当期資金収支差額は▲962万円の赤字と厳しい結果となりました。

<介護事業損益概要>

単位：万円

	科目	19年度実績	構成比	19年度予算	18年度実績	予算比	前年比
		特養 都和のはな	収益合計	10,322	100.0%	10,340	10,004
	人件費	7,608	73.7%	7,560	7,000	100.6%	108.7%
	費用合計	10,336	100.1%	10,084	9,482	102.5%	109.0%
	サービス活動増減差額	▲14	-0.1%	246	412	-5.7%	-3.4%
	経常増減差額	▲95	-0.9%	144	385	-66.0%	-24.7%
	当期活動増減差額	▲68	-0.7%	7	265	-971.4%	-25.7%
老健 西の京	収益合計	58,242	100.0%	58,944	56,636	98.8%	102.8%
	人件費	40,939	70.3%	40,372	39,994	101.4%	102.4%
	費用合計	57,516	98.8%	57,433	56,798	100.1%	101.3%
	サービス活動増減差額	725	1.2%	1,510	▲162	48.0%	-447.5%
	経常増減差額	969	1.7%	1,838	30	52.7%	3230.0%
	当期活動増減差額	▲463	-0.8%	436	▲467	-106.2%	99.1%
GH 都和のはな	収益合計	4,643	100.0%	4,596	4,412	101.0%	105.2%
	人件費	3,464	74.6%	3,449	3,481	100.4%	99.5%
	費用合計	4,489	96.7%	4,426	4,490	101.4%	100.0%
	サービス活動増減差額	154	3.3%	169	▲77	91.1%	-200.0%
	経常増減差額	123	2.6%	129	▲120	95.3%	-102.5%
	当期活動増減差額	32	0.7%	49	▲181	65.3%	-17.7%
虹の家	収益合計	2,264	100.0%	2,911	2,847	77.8%	79.5%

	人件費	2,359	104.2%	2,554	2,674	92.4%	88.2%
	費用合計	2,699	119.2%	2,865	2,985	94.2%	90.4%
	サービス活動増減差額	▲ 434	-19.2%	45	▲ 138	-964.4%	314.5%
	経常増減差額	▲ 427	-18.9%	45	▲ 137	-948.9%	311.7%
	当期活動増減差額	▲ 504	-22.3%	5	▲ 161		313.0%
合計	収益合計	75,473	100.0%	76,791	73,899	98.3%	102.1%
	人件費	54,371	72.0%	53,937	53,149	100.8%	102.3%
	費用合計	75,042	99.4%	74,820	73,755	100.3%	101.7%
	サービス活動増減差額	430	0.6%	1,971	35	21.8%	1228.6%
	経常増減差額	569	0.8%	2,157	158	26.4%	360.1%
	当期活動増減差額	▲ 1,004	-1.3%	497	▲ 544	-202.0%	

(2) 保育分野

各園の児童延べ人数は、白い鳥保育園 1,474 名（1 か月平均 123 名、前年度比 97.2%）、洛西保育園 1,717 名（1 か月平均 143 名、前年度比 98.5%）、あらぐさ保育園 674 名（1 か月平均 56 名、前年度比 98.5%）、青い空保育園 890 名（1 か月平均 74 名、前年度比 109.6%）となりました。

<児童数 前年対比>

保育園	児童数	19 年度	18 年度	前年比
白い鳥保育園	年間児童数	1,474	1,516	97.2%
	月平均児童数	123	126	
洛西保育園	延べ児童数	1,717	1,743	98.5%
	月平均児童数	143	145	
あらぐさ保育園	延べ児童数	674	684	98.5%
	月平均児童数	56	57	
青い空保育園	延べ児童数	890	812	109.6%
	月平均児童数	74	68	
合計	延べ児童数	4,755	4,755	100.0%
	月平均児童数	396	396	

白い鳥保育園は、当初園児の確保が厳しく、定員割れ（118人）でスタート、年平均 123 人まで園児数を増やしました。洛西保育園は、今年も多くの定員外園児を受け入れました。中央病院移転に伴い 2 名の転園、延長保育の申請が増えました。あらぐさ保育園は、0 歳児の入園予定 2 名がキャンセル、その後園見学者も多く、8 月には予定の 9 名の定員となりました。青い空保育園は、年度当初から定員外を受け入れ、最終的には 77 名の児童数となり、過去最高人数となりました。

サービス活動収益は、白い鳥保育園前年比 97.4%・予算比 107.4%、洛西保育園前年比 101.0%・予算比 108.2%、あらぐさ保育園前年比 88.8%・予算比 101.0%、青い空保育園前年比 111.1%・予算比 116.1%となり、全体で前年比 99.50%、▲329 万円の減収・予算比 108.2%となりました。あらぐさ保育園は前年取れていたチーム加算が今年度はないため、前年比は大きく落ち込んでいます。

サービス活動支出は、合計で予算比・前年比で 99%・89.9%となっています。

当期活動収支差額は、白い鳩保育園（762万円の黒字）、洛西保育園（2,254万円の黒字）、あらぐさ保育園（799万円の黒字）、青い空保育園（1,858万円の黒字）、合計で5,674万円の黒字（予算比564.0%）となりました。

<保育事業損益概要>

単位：万円

保育園	科目	19年度実績	構成比	19年度予算	18年度実績	予算比	前年比
白い鳩 保育園	サービス活動収益	18,703	100.0%	17,413	19,202	107.4%	97.4%
	人件費	14,872	79.5%	14,591	15,405	101.9%	96.5%
	サービス活動費用	17,442	93.3%	17,919	17,919	97.3%	97.3%
	サービス活動増減差額	1,260	6.7%	355	1,282	354.9%	98.3%
	経常増減差額	1,429	7.6%	488	1,457	292.8%	98.1%
	当期活動増減差額	762	4.1%	▲ 111	1,055	-686.5%	72.2%
洛西 保育園	サービス活動収益	22,758	100.0%	21,038	22,522	108.2%	101.0%
	人件費	16,242	71.4%	16,854	16,722	96.4%	97.1%
	サービス活動費用	20,036	88.0%	20,416	20,114	98.1%	99.6%
	サービス活動増減差額	2,722	12.0%	621	2,408	438.3%	113.0%
	経常増減差額	3,185	14.0%	1,361	3,009	234.0%	105.8%
	当期活動増減差額	2,254	9.9%	803	2,387	280.7%	94.4%
あらぐさ 保育園	サービス活動収益	11,076	100.0%	10,967	12,471	101.0%	88.8%
	人件費	8,286	74.8%	8,929	9,060	92.8%	91.5%
	サービス活動費用	10,134	91.5%	10,721	10,671	94.5%	95.0%
	サービス活動増減差額	942	8.5%	245	1,800	384.5%	52.3%
	経常増減差額	1,049	9.5%	347	2,156	302.3%	48.7%
	当期活動増減差額	799	7.2%	132	1,857	605.3%	43.0%
青い空 保育園	サービス活動収益	13,288	100.0%	11,446	11,961	116.1%	111.1%
	人件費	8,996	67.7%	8,947	8,414	100.5%	106.9%
	サービス活動費用	11,054	83.2%	11,036	10,591	100.2%	104.4%
	サービス活動増減差額	2,234	16.8%	410	10,591	544.9%	21.1%
	経常増減差額	2,328	17.5%	480	1,453	485.0%	160.2%
	当期活動増減差額	1,858	14.0%	180	1,096	1032.2%	169.5%
合計	サービス活動収益	65,827	100.0%	60,865	66,156	108.2%	99.5%
	人件費	48,398	73.5%	49,323	49,601	98.1%	97.6%
	サービス活動費用	58,668	89.1%	59,232	59,295	99.0%	98.9%
	サービス活動増減差額	7,159	10.9%	1,633	16,081	438.4%	44.5%
	経常増減差額	7,993	12.1%	2,679	8,075	298.4%	99.0%
	当期活動増減差額	5,674	8.6%	1,006	6,395	564.0%	88.7%

(3) 児童支援

児童発達支援事業の利用状況は、パーチェ年間 3,281 名（1 日当たり 11.5 名、前年比 104.2%）、第二パーチェ年間

2,723名（1日当たり9.5名、前年比98.0%）、パーチェ梅小路年間2,653名（1日当たり9.3名、前年比98.5%）、相談支援パーチェ計画相談316件（月平均26.3件、前年比108.9%）モニタリング262件（月平均22.2件、前年比98.1%）となっています。

	2018年度						2019年度						増減	
	利用者数	1日あたり	欠席加算	関係連携加算	事業所内相談加算	家庭連携	利用者数	1日あたり	欠席加算	関係連携加算	事業所内相談加算	家庭連携	利用者数	1日あたり
パーチェ	3,148	11.0	424	28	7	43	3,281	11.5	386	29	4	28	133	0.5
第二パーチェ	2,778	9.6	300	37	0	25	2,723	9.5	285	33	0	23	▲ 55	▲ 0.1
パーチェ梅小路	2,691	9.3	367	33	4	28	2,653	9.3	359	41	1	17	▲ 38	0.0
合計	8,617	29.9	1,091	98	11	96	8,657	30.3	1,030	103	5	68	40	0.4

サービス活動収益は、パーチェは前年比107.4%、第二パーチェは前年比105.5%、パーチェ梅小路118.2%、相談支援パーチェは前年比102.5%、合計で前年比109.3%（1,174万円の増収）となりました。特定処遇改善加算と梅小路の体制加算により増額となっています。

当期活動増減差額は、パーチェ1,122万円、第二パーチェ802万円、パーチェ梅小路820万円、相談支援事業パーチェ316万円、合計で3,061万円の黒字（予算比119.4%）となりました。

＜児童支援事業損益概要＞

単位：万円

	科目	19年度実績	構成比	19年度予算	18年度実績	予算比	前年比
パーチェ	サービス活動収益	4,902	100.0%	4,432	4,566	110.6%	107.4%
	人件費	2,770	56.5%	3,000	2,626	92.3%	105.5%
	サービス活動費用	3,600	73.4%	3,907	3,378	92.1%	106.6%
	サービス活動増減差額	1,301	26.5%	524	1,188	248.3%	109.5%
	経常増減差額	1,302	26.6%	692	1,189	188.2%	109.5%
	当期活動増減差額	1,122	5.5%	512	988	219.1%	113.6%
第二パーチェ	サービス活動収益	4,074	100.0%	3,992	3,861	102.1%	105.5%
	人件費	2,193	53.8%	2,220	1,924	98.8%	114.0%
	サービス活動費用	3,032	74.4%	3,093	2,706	98.0%	112.0%
	サービス活動増減差額	1,042	25.6%	898	1,155	116.0%	90.2%
	経常増減差額	1,042	25.6%	1,186	1,162	87.9%	89.7%
	当期活動増減差額	802	19.7%	946	924	84.8%	86.8%
パーチェ 梅小路	サービス活動収益	3,916	100.0%	3,926	3,314	99.7%	118.2%
	人件費	2,270	58.0%	2,328	2,105	97.5%	107.8%
	サービス活動費用	2,856	72.9%	2,880	2,603	99.2%	109.7%
	サービス活動増減差額	1,059	27.0%	1,045	710	101.3%	149.2%
	経常増減差額	1,060	27.1%	1,165	721	91.0%	147.0%
	当期活動増減差額	820	20.9%	925	481	88.6%	170.5%
児童相談支援 パーチェ	サービス活動収益	907	100.0%	780	885	116.3%	102.5%
	人件費	480	52.9%	480	480	100.0%	100.0%

	サービス活動費用	589	64.9%	594	594	99.2%	99.2%
	サービス活動増減差額	317	35.0%	290	290	109.3%	109.3%
	経常増減差額	317	35.0%	290	290	109.3%	109.3%
	当期活動増減差額	316	34.8%	290	290	109.0%	109.0%
合 算	サービス活動収益	13,800	100.0%	13,131	12,626	105.1%	109.3%
	人件費	7,714	55.9%	80,280	7,135	9.6%	108.1%
	サービス活動費用	10,079	73.0%	10,483	9,281	96.1%	108.6%
	サービス活動増減差額	3,721	27.0%	2,647	3,343	140.6%	111.3%
	経常増減差額	3,723	27.0%	3,223	3,362	115.5%	110.7%
	当期活動増減差額	3,061	15.7%	2,563	2,683	119.4%	114.1%

3. 積立金の提案

各保育園の当期末支払資金残高と委託費（委託費の減少傾向）の比率を考慮し、今年度は前期末支払資金残高からの取り崩しを行い、以下のように積立金の積み立てを行う。

＜白い鳩保育園＞	前期末支払資金残高	取り崩し額	3,783,420 円
	施設設備整備積立金	800 万円	備品等購入積立金 400 万円
＜洛西保育園＞	前期末支払資金残高	取り崩し額	6,298,548 円
	施設設備整備積立金	2,000 万円	備品等購入積立金 1,000 万円
＜あらぐさ保育園＞	前期末支払資金残高	取り崩し額	4,194,481 円
	施設設備整備積立金	600 万円	備品等購入積立金 600 万円
＜青い空保育園＞	前期末支払資金残高	取り崩し額	無
	施設設備整備積立金	500 万円	備品等購入積立金 500 万円

①当期資金収支差額＋各種積立金／事業活動収入（決算額） 5%以内 超えた場合は収支分析計算書の作成

②当期末支払資金残高／委託費収入 30%以下

	当期資金収支差額	積立金	修正資金収支差額	事業活動収入	比率
白い鳩	8,216,580	12,000,000	-3,783,420	188,723,667	4.35%
洛西	23,701,452	30,000,000	-6,298,548	232,487,065	10.19%
あらぐさ	7,805,519	12,000,000	-4,194,481	111,878,640	6.98%
青い空	16,995,681	10,000,000	6,995,681	133,940,573	12.69%

	当期末支払資金残高	積立金	修正当期末支払資金残高	委託費収入	比率
白い鳩	52,418,146	12,000,000	40,418,146	146,374,800	27.61%

洛西	77,114,805	30,000,000	47,114,805	172,930,130	27.24%
あらぐさ	38,541,388	12,000,000	26,541,388	97,197,280	27.31%
青い空	37,977,593	10,000,000	27,977,593	111,673,430	25.05%

64,000,000

4. 利益処分の提案

今期繰越利益	85,405,632
今年度積立金	64,000,000
次期繰り越利益に繰入	21,405,632

5. 社会福祉充実計画の対応

社会福祉充実残額は0円となり、社会福祉充実計画の対象ではありませんでした。

以上